令和元年度　唐津市立東唐津小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
みんなと確かに伸びる子どもの育成 「ひびき合うあいさつ・がんばる勉強（読書）・しっかり仕事」ができる東っ子の育成	①学力の向上（主体的・対話的で深い学びの実現・学習を支える集団づくり） ②一人一人を大切にする教育（個別の支援の充実、多人数集団への適応力育成） ③地域との連携（地域諸団体との積極的な交流） ④人間力の向上（明るいあいさつの徹底、コミュニケーション能力の向上、キャリア教育の充実） ⑤業務改善・教職員の働き方改革による、ゆとりある教育活動の推進

達成度
A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①基礎学力の定着と活用する力の向上を図る

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員会から：学校関係者評価委員の評価（A～Dで記入）	学校関係者評価委員会から：意見や提言など
教育活動	●学力の向上	・指導法の工夫や学習習慣の定着に関する取り組みと学習集団づくりによる学力の向上	・全国及び県の学力・学習状況調査における前年度比向上を目指す。 ・学校評価アンケートにおいて学校の取組に対する保護者の肯定的評価90%以上を維持する。	・基礎基本の定着を図るため、共通理解して宿題やプリント等で反復練習を行う。 ・自分の考えを説明する機会を多く設け、児童の学習意欲を喚起させるような問題の開発、また問題解決的な学習を積極的に仕組む。 ・各学級に掲示してある「説明する時のナイス言葉」をどの教科でも活用し、児童の発表や説明の充実を図る。	A	・12月の県学調の結果は、5年生、6年生は昨年度と同じく県平均と同等の結果であった。4年生はどの領域も県平均より正答率が高かった。 ・保護者のアンケートの結果から、学校の学力向上に対する取り組みに対して目標値を上回る肯定的評96．9%を得ることができた。	・計画的に、「主語・述語」「慣用句・ことわざ」「接続語」「指示語「ローマ字」「熟語」などの反復練習をする。 ・心情を読み取ることができるようになるためには、読書の質の向上が必要である。各学年の発達段階に応じて読書指導をする。 ・文章量が多い問題に対して、問われていることを正確に把握するために最後まで読み込む練習をする。	A・・・3名	・保護者へもアンケートをとる等され分かりやすく数値も出ている。 ・勉強に集中して取り組む姿がすばらしいと思った。 ・学力調査にその成果が表れていると思う。 ・授業参観をしても、児童の態度もよく授業を受けている。
教育活動	●志を高める教育	児童のキャリア観の育成	・学期始めや児童集会、学級活動や総合的な学習等で、発達段階に応じた職業観や自分自身の成長について目標意識を自覚させ、将来や自分の成長に対しての展望を持っている児童の割合を75%以上にする。	・全学級で学期始めの目標や人権の日のアンケートで、どのような人になりたいのかを考えさせて、定期的にフィードバックしながら児童の成長を促す。 ・毎月の児童集会で、「どんな人になりたいか」（目標）「そのために頑張ること」（取り組み）を児童に発表させ、意識を高める。 ・児童の目標を校内に掲示したり、学校便りで保護者に知らせたりして、キャリア教育に対する関心を高める。	B	・各学期の初めや、各月の人権の日アンケートで児童に夢や目標を考えさせることができた。 ・3学期は各学級で毎週振り返りの時間を設定し、短期の振り返りを通して意欲を高めている。 ・児童の自分自身の成長について目的意識は85．6%であったが、保護者の肯定的意識は68．8%であり、キャリア教育の意義の啓発が必要である。	・めざす児童像に位置づけ、キャリアパスポートも活用しながら、学校行事等でもめあてや振り返りの時間を設定する。 ・各学年に応じたキャリア教育の計画を立て、学級単位での総合的な学習や学級活動等で実施する。 ・PTA総会でキャリア教育の意義について保護者に説明する。また、定期的にHPや通信で知らせる。	A・・・2名 B・・・1名	・どんな仕事より、どんな人になりたいかという方が子どもに分かりやすく良いと思う。 保護者の理解は後からでいいと思う。 ・年齢的なもの、体験したもので変化していくので、その成長も楽しみだと思う。 ・1日の説明で評価することは難しい。キャリアパスポートは9年間分を保存できるのだろうか。

②校内体制を充実させ、一人一人の特性に応じた支援を行う

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員会から：学校関係者評価委員の評価（A～Dで記入）	学校関係者評価委員会から：意見や提言など
教育活動	○一人一人を大切にする教育の充実	・個に応じた適切な支援の策定・実践 ・多人数集団に対する適応力や対応力の育成	・月1回の定例「支援会議」の開催及び必要に応じた会議や研修を確実に実施する。 ・月1回の定例「子ども理解研」等、情報交換会を確実に実施する。 ・多人数集団に対する適応力の育成のため、他校との交流学級体験を年2回行う。 ・ソーシャルスキルアップを目指し、学校全体で系統的に取り組む。 ・学校評価アンケートにおける「学校では一人一人が大事にされている」という肯定的評価を児童、保護者とも80%以上で維持する。	・スクールカウンセラーによる教育相談のより一層の活用する。 ・各学年、各部によるキャリア教育の充実を図る。 ・定例及び臨時の「子ども理解研」による情報交換と共通理解、事案への早期対応を行う。 ・「支援会議」や「ケース会議」の開催など必要に応じた特別会議による支援策・対応策を策定する。 ・巡回相談の活用や専門機関との連携を推進する。 ・ソーシャルスキルブックの計画的な取り組みを行う。 ・保護者への密な連絡による連携の充実を図る。 ・近隣小学校との積極的な交流学習の実施など、多人数集団に対する適応力を育成するための教育計画を策定し実践する。	B	・月1回の定例「支援会議」や「子ども理解研」を欠かさず行うことで、問題の早期解決を図ることができた。また、スクールカウンセラーとの連携で家庭との協力体制もできてきた。 ・ソーシャルスキルを隔週金曜の朝に位置づけることで、系統的に学んだり、状況に応じた指導ができたりして効果がみられた。 ・多人数集団への適応として、高学年では宿泊訓練や修学旅行の交流や、他校での授業体験などを計画的に行うことで適応力が育まれてきている。 ・児童の肯定的意識　87．8%、保護者の肯定的意識　75．0%。	・「子ども理解研」では、複数の職員の目で児童の様子や周りの子ども達との関わり方を情報交換をして、問題の早期解決を図っていく。 ・児童の問題行動や不登校に対しては、保護者や関係機関との連携をさらに強めて解決を図っていく。 ・ソーシャルスキルが、まだ十分に活用できていないので職員研修を行い学校全体で系統的に取り組めるようにする。 ・多人数集団への適応として、今後も五中校区での交流の機会を増やしたり内容の精選を行ったりしていく。	A・・・3名	・一人一人を大切にしているのが学校を訪問するとより感じている。 ・人数が少なく、一人一人を把握されているので、対応は十分だと思う。 ・小規模校で、個人を先生方がよく見られていると思う。

③職員のゆとりを広げ、地域の教育力を学校教育へ活用する

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員会から：学校関係者評価委員の評価（A～Dで記入）	学校関係者評価委員会から：意見や提言など
学校運営	○地域との連携	・教育活動での地域人材の活用 ・地域団体との積極的な交流 ・地域行事への児童の参加意欲の育成	・学校評価アンケートにおいて「保護者・地域との連携」の職員内部評価、保護者評価ともに80%以上を維持する。	・地域人材の活用、地域団体との交流、地域行事への児童の参加のより一層の推進を図る。 ・各種団体との協力関係の維持・向上。 ・総合的な学習の時間、生活科、家庭科、クラブ活動等具体的な場面を設定して、学校ボランティアの依頼をする。 ・地域行事への興味・関心を高める広報活動を行う。 ・地域の方々への感謝の気持ちを育成し、地域・郷土を誇りに思う体験活動を実施する。	A	・職員の肯定的意識87．5%。 ・保護者や地域の方は学校教育に関してとても協力的である。保護者のアンケートでは96．9%と肯定的な結果が出ている。運動会の準備や後片付け、プール掃除、地引き網体験学習、PTAバザーなど保護者や地域の方・消防団の皆さんが熱心に協力してくださっている。また、授業でも茶道クラブを快く引き受けて下さり、熱心に指導されている。	・毎年同じ活動であるが、保護者や地域の方への連絡を早めにそして密にしていく。 ・年度当初に、総合的な学習の時間、生活科、家庭科、クラブ活動等具体的な場面を設定して、学校ボランティアの依頼を計画していく。 ・年に3回程度の虹ノ松原清掃活動では地域の方と一緒に活動しながら、松原の保全活動に努め、郷土を愛する心情を育てていく。	A・・・3名	・保護者の都合があり、地域行事への参加は難しい面もある。 ・地域の人が自主的に協力されていると思う。 ・地域の諸団体との交流が良くなされていると思う。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の促進 ・地域行事に対する職員の負担感の軽減	・各分掌や各学年（低・中・高学年）の連携及び情報共有により、効率的な業務の推進、協働意識の更なる向上に取り組み、教職員の自発的時間外勤務について前年度の1か月当たり時間（22時間）を維持する。 ・地域連携における職員の負担感軽減を実感する職員の割合を80%以上とする。	・「学校における働き方改革」についての答申、通知文等をとおして働き方改革の目的を周知し教職員一人一人の意識改革を図る。また、保護者・地域に対しても説明理解を丁寧に行う。 ・各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、校務分掌の役割分担を平準化する。また、業務量の多い取組については協働作業を推進する。 ・校務サーバーのフォルダを分かりやすく整理して、誰でもいつでも活用しやすいパソコン環境に整え維持する。 ・土日に行われる地域連携行事の参加者について、必要最小限の人数に抑え、年度初めに割り振りを行う。	A	・個人や全体の見通しをもった業務遂行や協働意識により、時間外勤務時間は大きく縮小している。 　※1か月当たり　約17時間 ・土日の地域連携行事参加は、再度見直しを行い必要最少人数で事前に割り振りを行った結果（年間に1行事に参加）、負担感軽減につながった。 　※職員の負担感軽減意識　97．9% また、働き方改革について保護者・地域の理解も浸透している。	・今後も見通しをもった業務遂行を継続し、協働意識で業務改善・働き方改革を進めていく。また、土日に行われる地域連携行事も必要最少人数で事前割振りを行う。保護者・地域に対しては説明理解を引き続き丁寧に行っていく。 ・校務サーバーをより使いやすく整えるために、フォルダやデータの整理（不必要なデータの完全削除）を行う。	A・・・3名	・職場全体の足並みが揃っていて、十分にできていると思う。 ・児童、地域への対応は少ない人数でも良くなされていると思う。 ・令和2年度は複式学級が増え、職員が少なくなることは心配である。

④心の教育を推進し、社会性の育成を図る

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員会から：学校関係者評価委員の評価（A～Dで記入）	学校関係者評価委員会から：意見や提言など
教育活動	●心の教育	・明るい返事・元気なあいさつができる児童の育成	学校評価アンケートにおいて明るい返事と元気なあいさつが「よくできる」という児童の割合、保護者の「児童は返事やあいさつがよくできている」という肯定的評価をともに80%以上とする。	・授業や掃除、給食の時間などでの気持ちの良い元気な挨拶や返事の励行を徹底する。 ・全校朝会や児童朝会などでのあいさつの大切さの講和及び挨拶や返事を進んで元気よくしている児童の紹介をする。 ・計画委員の挨拶運動の継続により、一層の取り組みの改善や工夫を行う。 ・道徳をはじめとする教育活動を充実させ、挨拶の必要性や重要性を伝える。 ・保護者や地域連携行事等での地域の方や保護者による積極的な挨拶の呼びかけを依頼する。	B	・児童の肯定的意識77．5%、保護者の肯定的意識78．1%。 ・3学期からは、毎週月曜日に計画委員会で実施していた「朝の挨拶運動」を各学年にも割り当てて実施している。校舎内では以前よりも元気な声での挨拶ができているようだが、一歩校舎を出て地域に出ると、自分の方から積極的に挨拶が出来ている児童は少ない。	・今まで以上に、授業や掃除、給食、休み時間などでの気持ちの良い挨拶や大きな声での返事の励行を徹底させる。また、一方的なものにならないように「あいさつのキャッチボール」について話をし、日常的に自然に挨拶が交わせるように力を入れる。 ・SSTの時間や、道徳をはじめとする教育活動を充実させ、フルに活用させることで挨拶や返事の必要性や重要性をもっと積極的に伝えていく。 ・大人がよき模範となるように、教師が意欲的に取り組むと共に、保護者による積極的な挨拶の呼びかけを依頼する。	B・・・3名	・挨拶の声が聞かれるようになった。挨拶をしても気づかない子もいた。 ・保護者自身の挨拶が気になるので今後の課題だと思う。 ・校内での挨拶は、児童はよくしてくれるが、放課後はそうではない。こちらからも声を掛けるようにしている。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員会から：学校関係者評価委員の評価（A～Dで記入）	学校関係者評価委員会から：意見や提言など
教育活動	●いじめ問題への対応	・道徳教育、人権・同和教育、各種の取り組みによる思いやりの心情の育成・いじめの撲滅	・すべての児童に「いじめを許さない」という心情を育成する。 ・いじめ事象の早期発見と早期解決を期す。 ・学校評価アンケートにおいて学校の取組に対する児童の肯定的評価80%以上を維持し、保護者の肯定的評価を80%以上とする。	・トラブル発生直後の事実や経緯の確認、原因の究明、児童の思い、「いじめ」の有無の見きわめ、当日中の保護者への連絡・連携を徹底する。 ・あらゆる機会を活用しての「いじめを許さない心」「相手を思いやる心」「人権尊重の意識」等の心情面のより一層の育成を図る。 ・月1回のアンケート実施および月1回の「いじめ・人権」を考える日の継続・充実、内容の公表を行う。 ・多方面からの児童に関する情報の収集、全職員による全児童の見守り体制を強化する。 ・SCによる教育相談やエンカウンター、SSTなどの充実。 ・いじめに関する職員研修を行う。	A	・児童間のトラブルが起こった時に，校内または，保護者との連絡・連携を早急に行い，早期解決につなげることができた。 ・月1回のアンケートを確実に実施し，回答結果について職員間で共有し，学校全体で全児童も見守る意識を高めることができた。 ・児童の肯定的意識　85．7%、保護者の肯定的意識　81．3%。	・今後も児童間のトラブルについては，早期の報告・連絡・相談を心がけ，早期の解決につなげていく。 ・人権教室の内容やアンケート結果の考察などを通信等で保護者に知らせる。	A・・・3名	・月1回のアンケートをとられているのは、すぐに対応できてよい。 ・問題が起きても迅速な対応がなされていると思う。 ・小規模校で児童も仲が良さそうで街中でもいじめらしきものを見たことがない。 ・校内の縦割りグループが良いのかもしれない。
教育活動	●健康・体つくり	・積極的な運動習慣への意欲付けとその定着 ・自らの健康に対する関心と健康保持意欲の向上	・学校評価アンケートにおいて朝のマラソンへ積極的に参加し、運動や健康に興味・関心を持つ児童の割合、学校の取組に対する保護者の肯定的評価ともに80%以上を維持する。	・体育的行事だけで終わるのではなく、掲示物やカードを活用して、継続的に運動意欲を高めていく。 ・朝のマラソンは、児童の意欲が持続するような工夫の実践を行う。 ・学校三師による保健指導に加え、歯みがき指導等の集団指導を計画し実施する。 ・持久走大会記録の更新へ向けた意欲付けを積極的に実施する。 ・保健だより等による児童・保護者への積極的な啓発を行う。 ・感染症や子どもが興味を示す健康に関する情報等、「保健だより」の紙面充実のための情報収集を行う。	B	・10年近くこの活動を毎日続けてきたので、新鮮さがなくなりつつある。 ・持久走大会前の意識付けのためのマラソンカードの活用や大縄跳び大会に向けての全校体育を使った練習時間の確保などで意欲・関心を高めることができた。 ・児童の肯定的意識　71．4%、保護者の肯定的な意識　100%	・来年度の大幅な学級編成の変更に伴い、体育的行事の根本的な見直しを更に進めていく。 ・学校全体で縦割り班などを使い、児童の自主的な活動を促していく。	A・・・3名	・楽しく取り組まれているのですばらしいと思う。 ・朝ランなどの取り組みが良いのではないか。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

○学力向上に関しては、一定の成果は出ているものの、「読むこと」に課題があった。「読むこと」は、全ての学習の基礎となるので、次年度に向けて、読書習慣の確立、授業の工夫・改善、家庭との連携等の取り組みを行っていく必要がある。志を高める教育や心の教育、健康・体つくりについては、児童の主体的な取り組みを通して、児童自らが向上させたいという意欲を高める工夫をしていく。次年度は、職員減となり校務の多忙化が予想される。新教育課程や校務分掌を工夫し、保護者・地域との連携・協力を得ながら、全職員の協働体制により児童一人一人に寄り添った指導体制を確立していく必要がある。また、職員の働き方改革についても本年度同様に定時退勤を目標とする。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目